

注目される最近の中国の天然ガス市場と LNG 輸入：成長軌道に回復か

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
常務理事 首席研究員
小山 堅

2 月 28 日、弊所において、中国の天然ガス市場に関する IEEJ セミナーが開催され、中国の石油・ガス問題の専門家から、最近の中国天然ガス市場における需給動向や市場改革問題に関する極めて興味深い報告があった。筆者にとって、アジアの LNG 市場全体を見る観点からも特に重要と思われたポイントを紹介したい。

最も興味深かった点は、何と言っても、中国の天然ガス需要が再び増勢を強めているということである。中国の天然ガス需要は、2013 年までは対前年比 10% を大きく上回る極めて高い伸びを継続して示してきた。旺盛な経済成長を背景に、エネルギー需要そのものが拡大、その中でクリーンなエネルギーとして天然ガスが需要を大きく伸ばしてきた。しかし、その需要増加率は、2014 年から急速に鈍化し、2015 年の増加率は 3% 前後まで低下した。まさに中国が「新常态」の経済に構造変化を遂げ、経済成長率が 7% を割り込むまで鈍化したことがその重要な背景要因である。この天然ガス需要増の大幅な減速が世界の天然ガス需給、特にアジアの LNG 需給にも大きな影響を及ぼしたことは言を俟たない。

ちなみに、中国のガス需要を満たす供給源を大別すると、国産の天然ガス、パイプライン経由での天然ガス輸入、LNG 輸入の 3 つとなるが、いずれもこれまで需要増大に合わせて拡大傾向を示してきた。LNG は中でも需給バッファ役として、需要の伸びに合わせて 2014 年まで大きく拡大を続け、同年の輸入量は約 2000 万トンとアジア有数の LNG 輸入大国としてプレゼンスを高めてきた。こうした動向を見て、中国の（そしてその他のアジア諸国の）LNG 需要が堅調であるとの見通しに基づき、多数の LNG 供給プロジェクトの最終投資決定が行われてきたのである。もちろん、これに加えて、2014 年までの原油高価格とそれに連動したアジア市場での LNG 高価格が、多数の LNG 供給プロジェクトの最終投資決定を後押しする上で最も重要な影響を及ぼしたことは言うまでもない。

ところが、先述した需要増加の減速によって、まさに需給バッファ役であった LNG 輸入は大きな影響を受け、2015 年はついに若干ではあるが前年割れとなった。中国の（そしてアジアの）LNG 輸入拡大を見込んでいた市場において、実際には拡大の鈍化どころでなく、減少が発生したという状況はアジアの LNG 市場環境に大きな影響を与えたと言って良い。

これが、今日まさに顕在化しているアジア LNG 市場の需給緩和をもたらした需要サイドの重要要因となったと見ることができる。もちろん、現在の、そして当面持続すると考え

られている需給緩和・供給過剰の最大の原因は、豪州・米国等で陸続と立ち上がることが予想されている多数の LNG 供給プロジェクトの存在（供給力の大幅拡大）である。しかし、前述した通り、供給プロジェクトの立ち上がりをもたらした最終投資決定の背景には、高 LNG 価格と中国を中心とした堅調な需要増加という要因があった。その意味では、やはり、中国の LNG 需要に関する実態と認識が、アジア LNG 市場の環境を大きく左右してきていると言えよう。

しかし、2016 年には、中国の天然ガス需要増加率は二桁近くまで回復を示し、2017 年は再び 10%台に復帰するとの予想も出ている。この需要回復の牽引車は、発電部門と工業部門での需要拡大であり、大気汚染対策の強化が進められる中で、クリーン燃料としての天然ガス利用に拍車がかかっているものと見られる。また、LNG 価格が大幅に低下したことも、ガス利用の経済性を改善し、需要喚起に貢献したと見られている。その結果、中国の 2016 年の LNG 輸入は急増、前年比 25%近い増加で、2500 万トンを上回るに至った。

この堅調な増加は 2017 年も持続する可能性が高い、と見られており、今後の中国のガス需要と LNG 輸入の行方は、中国自身のエネルギーミックスだけでなく、世界のガス市場とりわけアジアの LNG 市場の需給環境に多大な影響を及ぼすと見込まれる。もちろん、現在、拡大継続が予想される供給力の増加は極めて大きく、中国における当面の需要増を吸収するには十分過ぎるほどであると見られる。しかし、巨大市場である中国の需給変化は決して見逃すことのできない重要要因であることは間違いない。

ちなみに、中国の第 13 次 5 年計画では、中国の一次エネルギー消費は 2015 年の標準炭換算 43 億トンから、2020 年には同 50 億トンまで拡大すると見込まれ、その中で、天然ガスはそのシェアを同期間で 6%から 10%まで拡大させ、石炭依存度の低減という政策目標の実現にとって、非化石エネルギー利用の拡大と共に重要な柱となっている。この見通し・目標においては、中国の天然ガス需要は 2015 年からほぼ倍増し 2020 年には 3500 億立米を大きく上回ることになる。最近増勢に再び転じてきたとはいえ、現状程度の需要増加のペースでは、到底、この 5 年計画ベースでの需要レベルには到達しない、との見方もある。しかし、逆に、仮に中国のガス需要拡大が 5 年計画での想定・目標に近いレベルまで加速化すれば、当然 LNG 需要も大きく嵩上げされることになる。今後の中国のエネルギー市場及び政策の動きはまさに要注目であろう。

こうした需給動向の中、中国の天然ガス・LNG 市場での各種プレイヤーの動きも興味深い。LNG 調達面で先行してきた CNOOC を始め、CNPC や SINOPEC 等の中国石油メジャーがこれまでに契約したテイクオアペイ条項付きの LNG 供給をどう中国市場に持ち込んで、それぞれが市場シェアをどう確保していくのか、は重要な注目点である。同時に、徐々に進行する市場改革の中で、浙江省能源集団、北京市燃气集団有限責任公司等の省レベルでのガスグリッド運営者、ガス火力発電所、都市ガス企業など、新たなプレイヤーが LNG 調達や LNG 市場への参入をどう活発化させていくかも極めて興味深い。今後とも中国のエネルギー市場、そして天然ガス市場の行方から目を離すことはできないだろう。

以上